

## 編集後記

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報『ジェンダー研究』10号が無事に刊行の運びとなった。執筆者、査読者、校正者の方々をはじめ、ご協力を頂いた多くの皆様に心よりお礼を申し上げたい。今号では二本の依頼論文、三本の投稿論文、二本の書評論文、二つの研究プロジェクト活動報告、そして二つの書評を掲載した。

依頼論文として、ラセル・S・パレーニャス教授（米国カリフォルニア大学デイヴィス校）とエリ・バルトラ教授（メキシコ都立自治大学ソチミルコ校）にご寄稿いただいた。お二人とも2005（平成18）年度にジェンダー研究センターが外国人客員教授としてお迎えした先生方である。両論文とも、お二人が日本滞在中に行った調査をもとに書かれている。なお、バルトラ先生は本学出身の大村香苗氏と共同で調査、執筆された。より一層国際性の高い年報の刊行が求められる中で、今号に二本の英語論文を掲載できたのは嬉しい限りである。

投稿論文として若手研究者の論文を三本掲載した。中絶に関する判決をフェミニスト法学の視点から批判的に考察する山本論文、ジェンダーと表象の問題に取り組む井方論文、不妊当事者が抱える問題を検証する白井論文と、それぞれの扱うテーマは実に多様である。依頼論文のテーマも含め、あらためて女性学・ジェンダーに関する学術的研究の幅の広さと奥の深さを感じている。

今号の新企画ともいえる書評論文の掲載が実現したのは、執筆者の一人である嶺崎寛子氏のご協力というまでもなく、執筆者の紹介、書評本の選定などご協力いただいた編集委員各位のご尽力によるものと感謝している。私も力不足ながら書評論文を担当させていただいた。前号に続き、執筆の機会を与えられたことをとても光栄に思っている。

研究プロジェクト活動報告では、宮尾正樹、館かおるの両先生に成果刊行報告を、杉橋やよい先生に個人プロジェクトの中間報告をお願いした。ジェンダー研究センターでまた一つ研究が実を結び、また一つ新たな研究が着手され、進展しつつあることを大変嬉しく思う。

書評欄ではナショナリズム、エスニック・アイデンティティ、そしてジェンダーがまさに重層的に交差する地点に読者の関心を向ける二冊を取り上げた。書評者のご協力に感謝の意を表するものである。

前号に引き続き『ジェンダー研究』編集事務局を担当し、二年にわたって年報の編集、発行に携わった。その間、刊行費や郵送費の削減を余儀なくされるなど現実的な問題と常に隣併せではあったが、10号刊行という一つの大きな節目に、従来通り質の高い年報を刊行し続ける意義をあらためて実感している。女性・ジェンダーに関する学術研究の国内有数の発信源である『ジェンダー研究』に、一人でも多くの読者が国内外でアクセスできるよう、今後は紙媒体での年報刊行に加えてバックナンバーを含む年報の電子化を進めるなど、より戦略的な取り組みが求められてこよう。何はともあれ、今号も無事に刊行されたのは喜ばしい限りである。ご協力を頂いた方々に深く感謝の意を示すとともに、読者の皆さまには『ジェンダー研究』への変わらぬご支援をお願いしたい。

編集事務局 林 奈津子（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報  
『ジェンダー研究』

第10号 編集委員会

委員長	館 かおる	ジェンダー研究センター長 ジェンダー研究センター教授
	坂元 章	文教育学部人間社会科学科教授
	徳井 淑子	生活科学部人間生活学科教授
	三浦 徹	文教育学部人文科学科教授
	森 義仁	理学部化学科助教授
	伊藤 るり	ジェンダー研究センター教授
	足立真理子	ジェンダー研究センター助教授
	杉橋やよい	ジェンダー研究センター専任講師 (2006年9月まで)
	市井 礼奈	ジェンダー研究センター専任講師 (2006年12月から)
事務局	林 奈津子	ジェンダー研究センター研究機関研究員

---

平成19年3月24日 印刷  
平成19年3月29日 発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター  
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1  
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845  
E-mail igs@cc.ocha.ac.jp  
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社 昭和堂  
Tel 03-6267-7025 Fax 03-6267-7095

---